

平成28年

地域保健福祉委員会
管外行政調査報告書

平成28年12月19日（月）～ 20日（火）

千代田区議会

目 次

1	行政調査参加者名簿	P. 1
2	経 費	P. 1
3	調 査 の 目 的	P. 2
4	調査先及び調査事項	P. 2
5	訪 問 先 等 一 覧	P. 3
6	調 査 行 程	P. 4
7	国内行政調査実施までの経緯（委員会での議論等）	P. 6
8	行 政 調 査 内 容	P. 18
	（1）箱根町観光協会との懇談	P. 18
	（2）箱根千代田荘	P. 25
	（3）千代田区指定宿泊施設	P. 30
	（4）渋谷区立二の平渋谷荘	P. 38
9	今回の調査を踏まえて	P. 46

1 地域保健福祉委員会行政調査参加者名簿

(1) 委員 7名

委員長	桜井 ただし	(自由民主党議員団)
委員	岩田 かずひと	(民進・クリーン千代田)
委員	寺沢 文子	(千代田を紡ぐ会・民進)
委員	米田 かずや	(公明党議員団)
委員	大坂 隆洋	(自由民主党議員団)
委員	山田 丈夫	(自由民主党議員団)
委員	飯島 和子	(日本共産党区議団)

※はやお恭一副委員長(自由民主党 新しい千代田)は、体調不良により不参加となりました。

(2) 理事者 1名

地域振興部参事(コミュニティ総務課長事務取扱) 小 川 久美子

(3) 事務局 3名

事務局 長 大 矢 栄 一
議 事 主 査 赤 海 研 亮
議 事 主 査 吉 田 匡 令 (委員会担当書記)

2 経費

(1) 旅費 ￥213,600-

(内訳)

① 委員	7名分	￥145,600-
② 理事者	1名分	￥17,000-
③ 事務局職員	3名分	￥51,000-

(2) バス借上料 ￥175,140-

(有料道路代、駐車場代、運転手の宿泊代及び食事代を含む)

(3) 調査先(2か所)へのお土産代 ￥6,160-

合計 ￥394,900-

3 調査の目的

地域保健福祉委員会では、区保養施設の今後の方向性について、利用者や団体の意見を十分に把握しながら調査・研究していくこととしています。

箱根町観光協会との懇談及び近隣宿泊施設の視察により、現在休止中の箱根千代田荘の活用方策等について、今後の委員会での議論の参考とします。

4 調査先及び調査事項

(1) 箱根町観光協会との懇談

外国人も多く訪れる日本有数の観光地である箱根の魅力について

箱根の観光客の動向（増減等）について

観光協会として、保養所等の運営にプラスとなるような企画はないか

などについて、箱根町観光協会のお話を伺い、意見交換を行います。

(2) 箱根千代田荘

大涌谷の水蒸気噴出により箱根山の噴火警戒レベルが3となったこと等に伴い、平成27年7月20日から休館となっている箱根千代田荘の現況を確認します。

(3) 千代田区指定宿泊施設

民間宿泊施設の中から区の指定宿泊施設として指定し、利用料金の一部(1泊3,000円、1人年間10泊まで)を区が負担することにより、区民の方が割引料金で利用できる、指定宿泊施設事業の対象施設を調査します。

箱根地区に5か所ある対象施設のうち、「白湯の宿 山田家」に実際に宿泊し、バリアフリー対応がなされているか等の観点から調査を行います。

また、時間の関係で、他の4施設については、バス車中から施設外観を調査し、区の指定宿泊施設としてのアクセス・利便性等の観点から調査します。

(4) 渋谷区立二の平渋谷荘

指定管理者運営の渋谷区民向け保養施設として、高い稼働率を誇っています。

施設職員及び渋谷区職員の説明を聞きながら、施設を見学し、高稼働率の理由を探っていきます。

5 訪問先等一覧

■箱根町観光協会

所在地 神奈川県足柄下郡箱根町湯本 256 箱根町役場内

■箱根千代田荘（休館中）

所在地 箱根町強羅 1320-375

担 当 千代田区地域振興部コミュニティ総務課
政策経営部施設経営課

■渋谷区立二の平渋谷荘

所在地 箱根町二ノ平 1204

担 当 渋谷区区民部地域振興課

■【宿泊先】白湯の宿 山田家（千代田区指定宿泊施設）

所在地 箱根町強羅 1320-907

6 調査行程（移動手段は貸切バス）

【1日目】12月19日（月）

9時45分 千代田区役所（内堀通り沿い）南向きに配車

9時50分 出発

⇒代官町 ⇒（首都高速）⇒（東名高速）⇒厚木IC

⇒（小田原厚木道路）⇒小田原西IC⇒（国道1号）⇒

11時30分 箱根湯本 着

— 昼食 —

13時30分 箱根町観光協会 着 [箱根町湯本256 箱根町役場内]

14時35分 箱根町観光協会 発

⇒（国道1号）⇒（県道723号）⇒（県道733号）⇒

15時00分 箱根千代田荘 着 [箱根町強羅1320-275]

16時05分 箱根千代田荘 発

⇒（町道）⇒（県道733号）⇒（町道）⇒

ホテルマロウド箱根（箱根町強羅1320）前を通過

⇒（町道）⇒（県道733号）⇒（町道）⇒

ホテルリゾーピア箱根（箱根町強羅1320-1239）前を通過

⇒（町道）⇒（県道734号）⇒

16時25分 宿泊施設 着

白湯の宿 山田家 [箱根町強羅1320-907]

16時35分～17時20分 意見交換会

— 宿 泊 —

【2日目】12月20日(火)

10時00分 宿泊施設 発

⇒ (県道734号) ⇒ (町道) ⇒

紀州鉄道箱根強羅ホテル (箱根町強羅 1300-238) 前を通過

⇒ (町道) ⇒ (県道734号) ⇒ (国道1号) ⇒

箱根ホテル小涌園 (箱根町二ノ平 1297) 前を通過

⇒ (国道1号) ⇒ (県道723号) ⇒ 彫刻の森美術館駐車場

目的地の「二の平渋谷荘」近辺の町道が大型車通行禁止の

ため、彫刻の森美術館 [箱根町二ノ平 1121] の駐車場に駐車し、

徒歩で二の平渋谷荘へ移動

10時30分 渋谷区立二の平渋谷荘 着 [箱根町二ノ平 1204]

11時40分 二の平渋谷荘 発 (彫刻の森美術館駐車場から乗車)

— 昼食 —

13時25分 昼食会場 発

⇒ (国道1号) ⇒ 小田原西 IC ⇒ (小田原厚木道路)

⇒ 厚木 IC ⇒ (東名高速) ⇒ (首都高速) ⇒ 代官町 ⇒

15時10分 千代田区役所 着

7 国内行政調査実施までの経緯（委員会での議論）

2015（平成 27）. 06. 22 地域保健福祉委員会

○桜井委員長 （中略）先ほどの委員会の議論の中で、執行機関からこの保養施設についての方向性についてご報告をいただいたところでございますけども、委員の皆さんからは、この保養所のあり方、方向性について、区民の意向、区民の考え方というものをどのような形で反映をしているのかといった、るるご意見もございました。

執行機関からは、この件についての、前期から続けての、前期の中でも議論をいただいて、区民の考え、意見を取りまとめているというご報告がございましたけども、この件については、改選をして、新たなメンバーにもなりました。また、我々も区民の代表としてここに座っているわけございまして、この保養施設については、さまざまな意見もあろうかと思えます。またいろいろな経費もかかるというようなご報告もいただいておりますけども、まずは区民の意見をしっかりとやはり把握するということについては、まず我々のところでしっかりと、委員の中でそれを把握し、それでまた議論をしていかなければいけないというふうに思っております。

きょうは、先ほどご報告をいただいたところでございますけども、この保養施設につきましては、今後もこの当委員会の中で、委員の皆さんにも区民ニーズというものをしっかりと把握していただくということとともに、また、執行機関におかれては、丁寧な説明を区民の皆さんにさせていただく中で、また当委員会にその状況等についてご報告をしていただきたいと思います。きょうは、とりあえず、まずはその保養施設についてのご報告をいただいたところでございますけども、この件については、引き続き当委員会で議論をさせていただくということでまとめたいと思っておりますけども、地域振興部長、いかがでございますか。執行機関として。

○立川地域振興部長 ただいま委員長におまとめいただきましたように、保養施設のあり方をどうしていくかということにつきましては、区民の皆様方のご意見が大変重要だと認識いたしております。

昨年、私どもも地域に入らせていただきまして、いろいろ説明をしましたが、その際、先ほど来、委員の皆様方からご意見をいただいておりますように、説明が一方的であるとか、また手順・手続が乱暴であるとか、そういったご意見をいただきました。確かにそういった面があったのかもしれませんが。今後は、きょう説明をいたしました今後の区の考え方、これを丁寧に区民の皆様方に説明をさせていただき、また、その結果につきましては、当委員会にご報告をさせていただき、委員の皆様方のご意見を踏まえ、最終的な対応をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2015. 08. 25 地域保健福祉委員会

(中略)

○桜井委員長

前回の委員会の議事録を読んでいる中で、ここのところ、保養所を廃止するところが多いという、新聞にもこの間、取り上げられていましたけども、昨年12月だったかな、渋谷区が新しく保養施設を買っているんですね。1億1,000万で買っているんですよ。それで、前回の委員会のときにそういう事例があるんだということでのやりとりがあったんだけど、それについての報告というのは執行機関からないんだよね。渋谷区がどういう保養所として購入したのか。それがどんな状態なのか。まあ、12月だから、まだ報告するものも少ないのかもしれないけど、そこら辺のところというのがないわけ。非常に、僕は、そのやりとりを読んでいる中で、何かやり方があるんだろうか。どういう、渋谷区にはやり方があるんだろうかということ、非常に興味深く思ったんですよ。

渋谷区というのは、実は、新しく買ったところというのは、伊豆の河津というところの、河津桜があるところ。あそこです。ここにはプールがあって——その施設にはね。プールがあって、温泉プール。それと、体育館があるんです、小さな体育館が。それと保養施設になっている。だから、そこは、まあ、シルバー世帯の人たちには温泉に入っていただくし、サークルの方たちには体育館を利用していただく。または、小さなお子さんはお父さんと一緒にプールに入るといったような利用ができると。そういう施設になっているわけですよ。ですから、保養施設だけじゃないの、使い方が。

実は、渋谷区というのは、この購入をする前に、もう一つ、二の平というところに保養施設を持っているんです。この稼働率というのが90%、95%もあるの。いや、千代田区だって84ぐらいあるんでしょう、箱根は。そうだよ。84ぐらいあるんですよ、稼働率、箱根。

(発言する者あり) えっ。うん、そうそうそう。だから、やり方によっては、もっと使えるんじゃないのという話につながるんだけど。95%も稼働率のある二の平というところに施設があるんですよ、渋谷区。何と、ここの運営をしているのは、箱根の富士屋ホテルなんです。(発言する者あり) それで、場所は、強羅の一つ手前なんです。場所もほとんど一緒、業者も一緒。片方はこんなにうまくやっているのに何で千代田区の強羅はそうなのと疑問に思うでしょう。

(発言する者あり) それでいて、今度、渋谷で新しく、そういう河津のところにつくった。

やっぱり使い方が、そのところにも、いろんな、そのプールだとかある。書いてありますけど。温泉プールみたいなのが使えると書いてあるけど、やっぱり、その使い方が、今まで温泉だけという使い方に特化していたから、利用者もそういう人に偏っていた。だけど、実際、そのファミリー世帯、聞くとところによると、近くに昆虫採集ができるカブトムシ村というところがあって、ホテルがそこを紹介するんですって。そうすると、夏休みは、子どもたちがそこに行くんだそうですよ。昆虫採集して夏休みの宿題をそれでやって、それで温泉に入ると。プールにも入ると。(「いいね」と呼ぶ者あり) ね。そういう話を聞くだけでも、全然、こう、何かイメージとして湧いてくるじゃないですか、使い方が。ねえ。施設の中に子どもがいて、

お年寄りがいて、サークルの人たちがいて、いろんな人たちが、区民が利用しているという、そんなイメージになるじゃないですか。

やっぱり、そういうような、こう、区民の声からもありますけど、もっといろんな使い方について考えてみていただけないですか、区として努力していただけないかという、そういうところの意見が多いというのはそういうことなんじゃないかなと、僕は思うんですけどね。

そこら辺のところも、執行機関のほうでもまた調べていただいて、やっぱり有効——こういう成功事例というのは、やっぱり我々も一つ、こう、我々の中でもその調査をして、提案できるものについては提案していくと。結果としていい結果になるということであればいいわけですから、やっぱしそこら辺のところは、まさに議会と執行機関が協力しながら、こういうことに対応していくという必要があるんじゃないかなと、僕は思うんですけどね。

まあ、ちょっと、そこまで話をしちゃったんですけど、そういう事例が、前回の委員会のときに議事録であったんで、ちょっと僕のほうで調べたらそういうことだった。まあ、それはそういうことだということで認識していただければいいかと思いますけども。

さあ、ほかに委員の皆さんからございますか。きょう——きょうのところについては、こういう説明をして、区民の皆さんに意見を聞いた。聞いたことをご報告しましたというところでペーパーが出てきています。ただ、委員さんの意見の中では、もう少し異なった意見も実際あるんじゃないんですかというような話もありましたし、また、連合町会の中では、意見が全く出ていない連合も2カ所あったと。それについて、じゃあなぜなんだろうというところについては、ちょっと今の段階ではわからないわけだよね。やっぱりそこら辺のところの意見の吸い上げ方についても、やっぱしこれからの中で、これをそのままね、そのまま区民の意見として、我々がそれを参考にしてジャッジを、全面的にジャッジをするという、そういうわけにはやっぱしいかないんじゃないかというような、そんな意見に、今、なっているんじゃないかと思います。

きょうはこの程度にしますけども、次回るときには、もう少し、執行機関のほうからは区民の意見について、声について、もう少しきめ細かな報告をしてください。それとあと、委員の皆さんには、まあ、この声は声として、この廃止をするに——あ、廃止をしたいということは言っているわけだけでも、それに対して、いろいろと疑問点もあるでしょうし、廃止になったときにはじゃあどうするんだといった、今、指定方式の話も出ましたが、もっと細かなところでの質疑の中身に入っていきたいと思いますので、今回はそういうふうにしたいと思います。

それと、今回はやお委員からご提案があった、事業者だとか、いろいろとその、懇談会形式で意見を交換するような場があってもいいんじゃないかと。

○寺沢委員 事業者では……

○桜井委員長 いやいや、例えばね。そういった意見もありました。そのことについては、これからの中でいろいろと皆さんからも意見を聞きたいと思います。例えば、こういう事業を進めるに当たって、例えば、箱根であれば箱根町の観光協会、あそこは、観光協会というのは箱

根で続けてくださいよというスタンスの人だから、何か意見があるかもしれない。アイデアもあるかもしれない。まあ、旅行会社であればJTBだってあるだろうし、また富士屋ホテルと話をすることだって必要になるかもしれないし、いろんなことはあると思うんですね。この間、はやお委員からそういうようなご提案もありました。

そこら辺のところについては、委員会としてどういうことができるのか、どういう方向性があるのかについて、ちょっと正副で考えたいと思います。この話というのは、非常にまだまだ入り口のところでございますので、しっかりと区民の声を聞きながら、議論をしていきたいと思いますので、委員の皆さんも、引き続き、何かございましたら、区民の皆さんにお声を聞いていただくというようなことでよろしくお願いしたいと思います。

2015. 11. 09 地域保健福祉委員会

(中略)

○桜井委員長 はい。少なくとも、今期この27年の5月以降開かれている当委員会の中では、廃止または売却というような執行機関の考えは受けましたけれども、それに対して、うちの委員会として、それでいいんじゃないかというような話にはなっていません。この5年間に限りというのは、そういうことを前提にしてやっていくということで出されているもので、ただ、箱根については、来年の4月1日以降、手を挙げるところがないということと、それと、大涌谷の噴火の問題もありました。ということもあって、この箱根を引き続き、今の段階で旅館業という形の中で続けるということはできないけども、けども、一方、委員会の中でももっと周知を徹底すべきじゃないか、または、執行機関として、区民に対して、使い方だとか、または事業者との協議だとか、そういったことをやるべきじゃないかというようなご意見が委員の皆さんからも多く出されました。今、委員会としては、そういう中で、前回の利用者団体の報告でも、かなりの部分が売却は、廃止、売却についてはいかがなものかといったようなご意見、それと、もっと区として、この利用に、区民の利用について、もう少し汗をかいて、しっかりと区民の保養施設としての利用ができるような、そういう対応を、やっぱし、区としてやっぱしもっとやっていくべきだといったようなご意見が非常に多かったというふうに認識をしております。あくまでも、廃止をするとか、売却をするということが前提であれば、5年に限りということが前期の委員会の中で、まあ、僕はここの委員会じゃなかったんだけど、あったのかもしれないけれども、そういうことではね……

○はやお副委員長 出ていないよね。

○寺沢委員 出てない……

○桜井委員長 うん。

○はやお副委員長 議事録を見ると、出ていない。

○桜井委員長 そういうことではありませんので、きょうご報告をこういう形でいただいたのは、この箱根のこともあって、指定宿泊事業者が具体的にどんなところがあるんだろう、またはその内容がどうなんだろうということもやはり知っておかないと、我々としても、この先の

ことをいろいろと審査するに当たって、これは知っておく必要があるだろうということで、きょうは出していただいたというふうに私は認識をいたしております。ただ、何度も重ねて言いますが、それは廃止だとか売却ということを前提に話をするということじゃございませんので、そのところは委員会として集約をさせていただきたいと。皆さんにそのように集約をさせていただきたい。どうですか。

○寺沢委員 私は、はなから意見として出させていただいているんですけども、やはりかなりの金額が今かかっているという中で、区が大きく廃止という目標を出したことについては是認しております。ただし、そのやり方として、急にもう廃止ありきみたいなやり方ではなくて、丁寧な説明、それから、前回もありましたように、代替施設といいますかこういうものを用意して、こういうふうに使いますという、そこら辺も丁寧な説明があつて区民の方に説明して、納得していただけるという、筋道、プロセスを経た後には、私は廃止でも、これはいいんでないかということを、前々回ぐらいですかね、言っておりますけれども。私はそう思っております。

○桜井委員長 うん。

ちょっと休憩しましょう。

午前11時34分休憩

午前11時37分再開

○桜井委員長 委員会を再開します。

この保養施設についての、先ほど私も集約に向けての確認をさせていただきましたけども、今回、執行機関のほうから、保養施設の選定ということで、指定宿泊施設候補施設の選定ということで、具体的な案のお示しをいただいたわけですが、当委員会としては、まだこの保養施設のあり方等についてというのは、議論がまだ十分できていないということで、先ほどもお話をさせていただきました。やはり、この保養施設を廃止するまたは売却するということを前提として、この5年間ということがスタートするということになると、やはり今までのこの議論はどうだったのかというところもやっぱり問われてきますので、そのところは、もう少しこの委員会で、しっかりと、このところについての議論を積んだ上で執行機関と協議をしながら、この保養施設については話を進めていくと。そのような形にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。では、そのようにさせていただきます。

2015. 12. 04 地域保健福祉委員会

(中略)

○桜井委員長 この(婦恋自然休養村及び箱根千代田荘の)件については、(発言する者あり)はい。この当委員会というのはことしになって始まったわけですけど、その前の委員会、その前の委員会からもずっとこの件について指摘をされてきているわけで、その中で、こういう先

ほど経緯についてご報告いただきましたけども、この委員会の中でも取り上げ、議論をする中で、確かに、そういう数字が出てきているという事実については、委員会としても認識しつつも、やはり、それに至るまでのね、至るまでの経緯・経過だとか、または、もう少し、もう少しこの事業に対して、2事業に対して新たな、まあ、だから別の視点からも対応するとか、検討するとかということがあるんじゃないかというようなことを、この当委員会の中でも指摘をしてきました。

そういう中で、いきなり廃止と売却なんていう報告の中で出てきたので、まあ、委員さんの中でも、私もそうですがもびっくりして、いきなりそれはないだろうという、そんなような話になってきたわけなんですけども。前回までの委員会の中では、この、まだもう少し検討する余地があるんじゃないかということで、ただ、事実としては、来年4月以降、手を挙げている業者さんはないわけですから、今までは廃止という言葉が、ここにも書いてありますけども、現状では、このまま4月1日以降は休止という形になるわけですね。休止という中で、このうちの委員会の中でも調査する必要があるんじゃないかということで、委員の皆さんとも一致した考え方を持っていますから、そこのところで執行機関ともご協力をいただきながら検討していくというような形になると思うんですけども。今、僕の整理をしたところで間違いはありませんか、部長。

今、僕が言ったでしょ。休止ということの中で、この施設についても検討していく必要があるんじゃないですかという、そういう認識でよろしいですね。

○立川地域振興部長　ただいま委員長ご整理いただきましたが、箱根千代田荘はとりあえず休止ということで、その後、また今後も引き続き委員会でご調査をいただいて、最終的な方向性を見出してまいりたいと思います。

○飯島委員　（中略）利用者が少ない、あるいはあんまり区民の方が望んでいない理由として世論調査とかそういうもののアンケートなどを提示されて、区民の方があんまり望んでいない、保養所についてはもう望んでいないんだよということが、再三言われたわけなんですけども、むしろ、その望んでいない、望むか望まないかの前に、保養施設があるということを知らないという区民の方が……

○桜井委員長　そのとおりだよ。

○飯島委員　多いということも、アンケートで出ているわけですね。

○桜井委員長　そのとおり。

○飯島委員　（中略）先ほど箱根のほうが休止となったんですけども、休止は廃止への一歩みだけに、そういうふうになってしまうと、またまずいと思うんですね。だから、休止の間に、区としてもどういうふうに区民の方に、こういう保養施設ということをアピールしていくのかというか、そこの煽惑に対する周知の仕方と、それから休止の間に区がやるべきことというんでしょうかね、そこら辺のところをあわせてお聞かせいただきたいんです。

○小川地域振興総務課長　（中略）箱根の休止の間の、区として、どうして、どういうふうに検討するのかというようなことなんですけども、先ほども委員長の整理にございましたように委員

会のほうと十分論議しながら、庁内でも検討してまいりたいと存じます。

千代田区民限定のご案内

■宿泊料金の割引

年度内10泊まで1人1泊あたり 宿泊料金から**3,000円割引**でご利用いただけます。
(割引額は大人・小人同額)

※割引を利用する場合は**事前に利用者全員の千代田区指定宿泊施設利用カードの作成(登録)が必要です。**

■宿泊プランはご選択いただけます。

※料金は、人数・利用日・客室タイプ・商品プランにより変わります。

■千代田区指定宿泊施設利用カードを作ります。

・下記のJTB店舗で、作成できます。

・区民と証明できる証明書類を持参の上、お手続きください。

※区民割引を利用する場合はカードの作成が必須です。(作成はコールセンターでは承れません)

・千代田区指定宿泊施設の2回目以降の申込みの際、店舗窓口・コールセンターで区民確認の証明として使います。

・チェックイン時の宿泊先施設でもご提示していただきます。

■宿泊料金のお支払方法

お支払方法には、現金またはJTB旅行券(ナイストリップ)・クレジットカード決済・銀行振込がございます。

・電話では、クレジットカード決済と銀行振込を承っております。

・店舗窓口では、すべてをお取り扱いしております。



お取り扱い店舗

JTB首都圏 トラベルゲート有楽町

千代田区有楽町2-4-10 JR高架下

●最寄駅: JR有楽町駅 徒歩1分 ●休業日: 12/30~1/3

●受付: 平日11:00~19:30 土曜・日曜・祝日11:00~19:00

●電話番号: 0570-200-581

JTB首都圏 神保町店

千代田区神田神保町2-2 共同ビル神保町2階

●最寄駅: 地下鉄神保町駅 徒歩1分

●休業日: 土曜・日曜・祝日(振替祝日・12/30~1/3 含む)

●受付: 平日11:00~19:00 ●電話番号: 0570-200-213

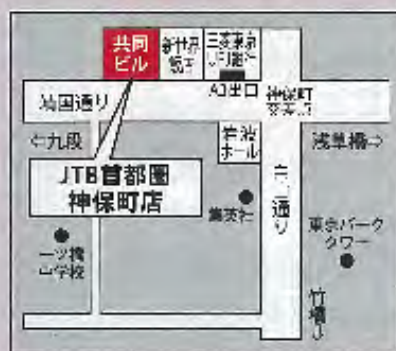
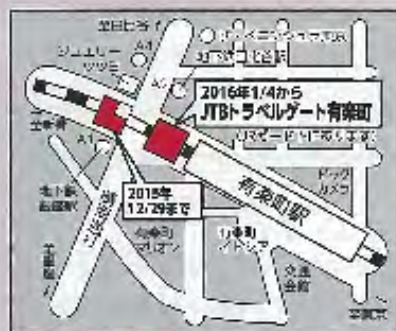
お電話でのご予約

JTB旅の予約センター (JTBコールセンター)

●休業日: 12/31~1/3 ●受付: 9:00~20:30

●電話番号: 0120-034-315 (予約専用回線)

※ご予約の際には、「千代田区指定宿泊施設利用カード」をご準備ください。



【制度のお問い合わせ】千代田区コミュニティ総務課 03-5211-4181

○大坂委員 区民カード（指定宿泊施設利用カード）の作成、少しずつふえてきているということなんですけれども、これ、やはりJTBの窓口のほうに行かないとつくれないというところが一つ、面倒だという声が聞かれるんですけれども、（発言する者あり）例えば、そのカードをつくるだけだったら出張所の窓口で何とか対応するなりということはできなかったんですかね。

○小川コミュニティ総務課長 最初の1回だけ、このカード自体が有効期間が5年間ということにさせていただきますので、最初の1回だけJTBの窓口に行っていていただいて、住所を証明するようなものを持っていていただいてということをお願いしております、その後は全て電話とかでできるというような仕組みにしておりますので、そこ、確かに1回行くのがというのはありますが、神保町でございますし、もう一つは有楽町ということでございますので、ちょっとそこのところをご容赦いただきたいかと思っております。

○大坂委員 その、神保町の方は、本当にそれほど離れてないのでもいいのかもしれないですけども……

○桜井分科会長 そうだよな。

○大坂委員 やっぱその、一番最初の1回だけとはいいますけど、その1回のハードルがちょっと高いんじゃないのかなというような気がします。なおかつ、今まで行ったことのないホテルに泊まることになるわけで、この辺の、もうちょっと考慮して、使いやすいものにしていただければなというふうに考えているんですけれども、今後の改善についてはどうでしょう。

○小川コミュニティ総務課長 この区民カードを作成して、予約してというようなことが全てコンピュータでやっていくみたいな形になっていますので、ちょっとそこのところだけ切り分けて出張所ということは、経費も相当にかかるというふうに思っておりますので、難しいと思っております。

○大坂委員 本当に出張所でできるようになれば、かなり区民にとっても利便性が上がるんじゃないのかなと思いますので、当面ちょっと費用の問題で難しいのかもしれないですけども、引き続きちょっと検討をしていただければなというふうに思います。一方で、箱根千代田荘の施設ですね、こちらについて、今少し、ちょっと宙ぶらりんの状況になっているんじゃないかなというふうに考えているんですけれども、現状、今どういう形で管理がされているんでしょうか。

○小川コミュニティ総務課長 現在、民営の保養施設としての利用はもう終了している形になっておりますので、一応、区有財産ということで、その管理自体は警備会社に委託をして、施設経営課のほうで管理しております。

○大坂委員 さまざまな管理ということで、全く使わなくてもお金はかかっていくというような状況になろうかと思います。昨年のこの決算の委員会と、あと、常任委員会の中でも、今後、引き続きこの常任委員会の中で、今後の箱根千代田荘については、休止後も検討していくとい

うことになっていたかと思います。その後、委員会の中では、特に話がないままここまで来てしまったということがあるんですけども、やはりいま一度この保養施設のあり方というものについて、もうちょっと踏み込んでしっかりと議論していかなければならないのかなというふうに考えています。

確かに、区民カードの作成とか、そういった部分で利用状況が非常に少なくなってしまっているんですけども、この事務事業概要の79ページですね、これに、過去3年間、平成25年度から平成27年度の箱根千代田荘と湯河原の千代田荘の利用実績というのが載っています。これを見る限り、平成25年度は湯河原と箱根を合わせて6,848人、平成26年度が合わせて7,556人と。で、平成27年度については、箱根で火山の問題等々ありましたので、若干減ってはいるんですけども、そういったことを考えると、まだまだ保養施設の需要というものは、区民の中でしっかりとあるんじゃないのかなというのが、この数字を見る限り、私なんかは考えてしまうんですね。

一方で、恐らく今までの庁内の議論の中で、保養施設については一定の役割を終えたというようなことも言われておりましたけれども、やはり保養施設というのは、黒字を出しながらやっていくものではなくて、区民の福祉という部分を考えてときに、そこに対して、区としてどれぐらいお金を出せるかというようなことが、しっかりと議論されなければいけないんじゃないのかなというふうに考えています。ここはある程度、やっぱり政治的な判断というか、そういったものが求められてくるんじゃないのかなと思うんですね。

そういったことを考えたときに、以前この委員会の中でも、桜井分科会長のほうから提案、提案というか提唱があった二の平の渋谷区の施設なんかが、成功例として紹介をされていたかと思います。これは、千代田区が以前運営を委託していた富士屋ホテルさんがずっといまだにやっているということで、こういった成功事例というか、いまだに続いている事例というのがあるんで、常任委員会としてもこういった施設をしっかりと見たり、なおかつ箱根の千代田荘の現状を、施設が今どういう状況になっているのかというようにところも一度目で確かめてみる必要があるんじゃないのかなというふうに考えています。で、そのときには、箱根の観光協会ですか、そういったところと意見交換をすることによって、もっと知恵出しという部分ですね、何か、これからの箱根の千代田荘の施設を活用していく上で、いい意見が出てくるんじゃないのかなというふうに考えるんですけども、そのあたり、どういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

○桜井分科会長 議会としては、委員会、委員さんとしてはそういうようなご提案を、委員会としては、そういうこともいいんじゃないかというようなご意見をいただいた。で、それに対して、その執行機関としては、今、休止しているわけだから、議会がそういうことを考えることにに対して、どういうふうな感想をお持ちですかというところでの答弁はできるね。

○飯島委員 ちょっと関連なんですけど。

○桜井分科会長 はい。飯島委員、どうぞ。

○飯島委員 先ほど管理については警備会社に委託しているというお話でしたが、その金額

と、温泉権、何かそれも400万だかありますよね。

○桜井分科会長 うん。払っているんだね。

○飯島委員 ねえ。だから、今使っていないなくても払っているお金というのは幾らになるんでしょうか。

○桜井分科会長 あわせて、じゃあ。

コミュニティ総務課長。

○小川コミュニティ総務課長 警備会社に管理を委託している業務につきましては、370万8,000円、1年間で委託をしております。温泉については、今使っておりませんので、ございません。支出はございません。

○飯島委員 じゃあ、もう、それは返上しているわけ。

○小川コミュニティ総務課長 はい。

○飯島委員 ああ。

○桜井分科会長 うん。そうすると、かかっているお金というのは、この370万だけ。

○小川コミュニティ総務課長 はい。

○桜井分科会長 だけね。

それと、先ほど大坂委員が言っていた、もう少し区としてもそういうことを考えたらいいいんじゃないのというご提案をいただいたことに対しては、まあ、もちろん、きょうは分科会ですけど、委員会は委員会としての判断ということをもたしますけども、区として議会がそういう考え方を持っているということに対してどういようなお考えなのかは述べられますか。述べられるでしょ。（発言する者あり）

○小川コミュニティ総務課長 私どもとしましては、保養施設につきましては、公的な関与をしながらやっていくというような形はいかがなものかという考えでは……

○桜井分科会長 公的な。

○小川コミュニティ総務課長 公的な関与をして、保養施設を維持していくという考えはいかがなものかというふうには思っております。

それで、ただ、委員会の中でそうした意見があるということは庁内でも議論をしておりますので、そういうことは承知しておりますので、委員会の中でいろいろとご議論いただくことはよろしいかと思います。（発言する者あり）

○桜井分科会長 公的——役所としては公的な、要は、税金をこういう保養施設に投入する考えはありませんと、そういうことだ。そう。そういうこと。だそうです。これは大変だね。

今のところありますか、まだ。ありますか。

○飯島委員 はい。

○桜井分科会長 大坂委員は。いいですか。はい。

じゃあ、飯島委員、どうぞ。

○飯島委員 ことしも区が用意をしたその施設ではなくして、近隣区の保養施設、箱根にある保養施設を利用したという方も何人かいらっしゃるんですね。近隣区のことをちょっと調べて

みましたら、中強羅ですかね、そこにあるところは利用料も非常に安いんですよね。お正月、年末年始の期間というのも従来の通常の期間と余り変わらないというような金額でやっていて、利用率も非常に高くなっているんですね。で、11月、12月までの部屋のあれも満杯になっていて、大体、千代田区の箱根千代田荘と同じぐらいの規模のところなんですけれども。でも、そういうことを考えるならば、私は、まだ利用のあれは終わっていないというふうに思うんですけれどもね。やはり民設民営、民営化ということ自体がこういうことを招いたんじゃないかというふうに思っているんですね。その近隣区の調べたところは指定管理で温泉の使用料、それも区が出すということですね。また、指定管理料というの、利用料と相殺して、足りない分を指定管理料として区が持ちますよというような形なわけですよね。

だから、そういうふうなやり方であれば、事業者というのも手を挙げたと思うんですけども、残念なことに千代田区の場合には民営ということで、ああいう業務要求水準では、なかなか手を挙げるところもなかったんだらうなというふうに思うところなんです。でも、今、管理料として三百何万ということを使っているわけですから、そこを今後どうするのかということは、早急に、やはり精力的に考えをこう持っていけないと、何でそのままなのということになるわけですよね。もうロープウェイも動いているということでもありますね。

だから、そういうことを考えるならば、何か今のご答弁だと、議会のほうで論議してもいいですけども、自分たちはこう決めたんだから。でも、その後、検討もしていませんよというか、そういう感じに受け取れるんですね。ですから、区は区の方針として保養施設というのがもう必要ないということで、そういうスタンスを譲らないのであれば、次の利用を何か真剣に考えるとか提示するとか、そういうことがあってもいいと思うんですけども、どのような姿勢なんでしょう。

○小川コミュニティ総務課長 私ども保養施設のほうの担当のほうといたしましては、この施設については、活用するという今のところ考えはないということで、全庁的な検討をしていくというような形になろうかと思っております。

○桜井分科会長 前に示された考えから、何にも変わっていないということ。

○飯島委員 全庁的には。

○桜井分科会長 飯島委員。

○飯島委員 それでは、全庁的にはどういう論議に、現時点でなっているんですか。

○小川コミュニティ総務課長 これに限らず、いろんな区有財産があるわけなんですけれども、その全体の中での検討ということだと思いますが、まだ、具体的にどう行こうということは決まっていない状況でございます。

○桜井分科会長 この保養施設については、地域保健福祉委員会の中でも議論があって、それで、委員会としても、これについてももう少し調査をしようということで決まっているところもありますから、きょうは（決算の）分科会ですのでその議論はいたしませんけども、また改めたところで、ちょっと時間をつくらせていただいて、それで皆さんとご相談をさせていただくという形にしたいというふうに思います。

○桜井委員長　かねてから保養所についての、この当委員会の中での議論がなされてきました。で、また、箱根の千代田荘については、今、休止という形になっておりまして、これが再開できる可能性があるのかどうかということも含めて、やっぱしこの当委員会の中でしっかりと調査をする必要があるんじゃないかなというふうに思っております。

それで、ご提案をさせていただきたいと思いますが、12月19、20日あたりで、箱根の千代田荘と、それと、かねてからこの委員会の中でもいろいろと話題に上がっています、同じ富士屋ホテルさんの営業で、渋谷区の保養所が同じ強羅にございます。で、こちら、大変はやっているというお話も聞いておりますので、ここへの視察。それと、箱根の観光協会と、いろんな、この箱根のポテンシャル、いろんな情報だとか、そういったようなことについての話し合いも、やっぱしやっていく必要があるかなというふうに、実は思っております。そんな形で——もちろん現在の我々の箱根の千代田荘の現状もやっぱし見ておかなきゃいけませんので、それも、その場所のところにも視察に行きたいというようなことで、調査に行きたいというふうに思っております。

また、詳細についてはまた改めてご連絡したいと思いますけど、そのような形で当委員会として調査をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

それでは、詳細については、また改めて正副で検討した上で、次回のところで皆様にお示しをさせていただきます。

8 行政調査内容

(1) 箱根町観光協会との懇談



箱根町観光協会勝俣理事長（前列左から3番目）及び高橋専務理事（同2番目）とともに

【箱根町観光協会 勝俣理事長のあいさつ】

平成27年5月に噴火活動

1年3か月ぶり再開

今秋になって客足が戻りつつある、インバウンド増加

町全体で15%ほど落ち込んだ総売上を挽回しようとしているところである。

【桜井委員長あいさつ】

本日はご多忙の中ご対応いただき、感謝申し上げたい。

休館中の箱根千代田荘を今後どのようにしていくかということについて、委員会の中で議論している。

自分たちの目で現況を見つつ、アドバイスをいただきたい。

1 箱根の魅力について

箱根（町）は、富士箱根伊豆国立公園内にあり、富士山を映し出す芦ノ湖や美しい山々など、四季折々に豊かな表情を見せる風光明媚な大自然の美しさと、各所に湧き出す豊富な温泉、さらには、数多くの歴史的文化遺産に恵まれている。また、町内には旅館、ホテルなどの宿泊施設に加え、美術館、博物館などの文化施設、ゴルフ場、テニスコート、ハイキングコースなどのスポーツ・レクリエーション施設が多く整備されている。加えて、その他遊覧船、登山電車、ケーブルカー、ロープウェイ、遊覧船、バス路線など多様な公共交通手段が発達し、いろいろな楽しみ方ができる「旅のテーマパーク」として、国内外を問わず多くの観光客に親しまれ、愛されている。

春： さくら、新緑、つつじ、しゃくなげ
6月下旬～7月 あじさい 登山電車沿線 ライトアップ
夏： 7月 芦ノ湖 夏祭り
8月16日 強羅 大文字焼き 花火
秋： 仙石原のすすき 9月下旬から11月上旬
紅葉 9月 芦ノ湖 10月 湯本

箱根は17の温泉地を有し、泉質の種類も多い。

平成26年度の宿泊施設総数は433件

近年、寮や保養所が減少傾向にあるが、旅館・ホテルは微増している。

閉鎖した寮や保養所を旅館として再生しているケースがある。

2 箱根町観光協会として、保養所の運営にプラスとなるような企画は

箱根千代田荘のある強羅温泉には2種類の泉質

① 大涌谷から引湯した乳白色の温泉

② 早雲山から引湯した単純硫黄泉

観光の要衝としての立地条件

これらをうまく生かすことを考えるのがヒントになるのでは

ここ3年ほど、町内で数多くの宿泊施設が建設中あるいは計画中である。

純和風の高級旅館も建設される。

3 箱根の観光客の動向について

- ・年間2000万人前後で推移していたが、23年は震災、27年は大涌谷の火山活動活発化で大きく落ち込んだ。
- ・宿泊施設の小規模化によりキャパシティが減少している。
- ・大口の団体客は減り、個人や小グループの旅行客が増えている。
- ・宿泊施設内の消費額は減少傾向にある。
- ・館内での飲食費が増え、「花代」や土産代等が減っている。
- ・箱根では高級旅館が増え、宿泊単価が上がっている（全国的には低下傾向）

外国人観光客（インバウンド）は平成27年では108万人、うち宿泊客が37万8千人（平成24年は9万3千人）で急増した。

外国人観光客増加は大きな下支えとなった。



役場内会議室での懇談会の様子

【質疑応答（懇談）内容】

米田委員

インバウンドの外国人観光客が増加したことによって、日本人の観光客が減ったという面はあるか。文化や考え方の違いによるものか。

高橋専務理事

噴火警戒レベルが1から2になった際、日本人と違い、あまり情報を持ってなかった外国人には警戒心がなかったため、外国人観光客が増えた。

一方で、修学旅行で訪れた小学生は、前年の4万6千人から平成27年は5千人に激減し、5月6日以降はほとんどキャンセルとなった。

寺沢委員

大湧谷の状況が気になる。

「湯の道」が変わったことにより、枯渇してしまったということで閉鎖したのか。

高橋専務理事

「湯の道」ではなく、新しい火口ができたことにより、立ち入りができず、温泉のメンテナンスができなくなったことが原因。配管のお湯の通り道が狭くなったことにより、供給湯量が減ったということである。

桜井委員長

大湧谷の乳白色の温泉、早雲山の単純泉というように、温泉の種類が多く、いろいろな温泉が楽しめるということが箱根の魅力であるという話があった。

千代田荘の家族風呂は乳白色だが、男女風呂はともに透明である。

2種類入れているのか。

勝俣理事長

透明な方は濾過していると思う。

桜井委員長

温泉を濾過するメリットは？

勝俣理事長

硫黄泉は滑りやすいので、安全性や衛生管理面を考慮したと思う。

濾過しても効能は変わらない。

寺沢委員

保養所や寮は減っているが、小規模の旅館は増えているとのことだが、噴火の危険性は？見通しは専門家でも難しいが。

高橋専務理事

箱根町は入湯税収入が7億円近くあり、日本一である。箱根ブランドの証である。

過去の周期からみて、地下のマグマが直接吹き出す危険性は少ないとの専門家の分析である。大涌谷の場合は、マグマの上にたまった雨水が水蒸気として噴出している。

勝俣理事長

神奈川県温泉地学研究所の持っている地殻変動データは、地殻変動があればGPSにより観測できるようになっている。

飯島委員

保養所・寮の数が減っているとのことだが、自治体の保養所はどのくらいあるのか。また個々の施設の運営形態はわかるか。

高橋専務理事

配付資料を参照されたい。運営形態までは把握していない。

（港区、新宿区、渋谷区の施設は指定管理者が運営）

岩田委員

温泉をくみ上げている管の耐用年数はだいたいどのくらいか。

勝俣理事長

泉質、管の材質、縦系統か横系統か、傾斜等によっても異なる。

人間の血管にコレステロールが付着するようなもの。

私どものホテルでは、毎年どこかの配管を取り替えている。

大坂委員

外国人観光客受け入れの対策として、具体的な取り組みは。

高橋専務理事

一昨年から県がフリーWi-Fiの環境整備をしており、箱根に160か所ある。

各種案内の表記を含め、多言語対応も推進しているところである。

桜井委員長

グループなどで思いっきり声を出して活動できるスペースが千代田荘にはない。
共同で利用できるような施設（学校開放など）はないか。高原学校は売却されてしまった。

高橋専務理事

4～5年前に廃校になった仙石原中学校を宿泊施設に転用している。
芝を貼った校庭と体育館がある。利用者が多いと聞いている。

寺沢委員

廃止された自治体の保養所はどのように転用されているのか。

勝俣理事長

中野区の保養所は民間へ売却され、民営の安価な旅館スタイルの宿泊施設となったが、結局また廃止となってしまった。いま新たな資本が入ると聞いているが、いまのところ詳細はわからない。

飯島委員

宿泊施設への転用は、利用価値があるということか。

勝俣理事長

基礎や耐震性が優れた施設を造っているので、民間が買う場合はメリットがあると思う。

飯島委員

安価なところがつぶれ、高級なところが流行っているということか。

勝俣理事長

箱根のこれからの市場は変わっている。
インバウンドと日本人観光客をどのように棲み分け、インバウンドの影響を抑えつつ、国内客の需要をいかに上げるか。価値を上げようとしていくと単価も上がっていく。もはや安かろう悪かろうの時代ではない。

飯島委員

高いお金は払えないが、箱根に行きたいという人は、やはり自治体の保養所ということになるか。

高橋専務理事

決して箱根のすべてが高いわけではない。

桜井委員長

自治体の保養所は、区民にとっては目をつむってでも行ける別荘のような感覚である。
保養所に対する区民の根強い人気はまだあると思っている。

観光協会の方のお話を伺い、箱根は、観光地として、大きなポテンシャルや多くの引き出しを有し、多くの泉質の温泉や四季折々の多様な箱根の魅力やブランド力を知ることができました。

委員からは、「箱根町内に宿泊施設を構えている本区も、箱根町観光協会が持っている様々なノウハウや知恵を生かさない手はない」との意見がありました。

(2) 箱根千代田荘

次に、大涌谷の水蒸気噴出に伴い温泉設備の維持管理が困難となり、温泉供給量不足となったこと等により、平成27年7月から休館となっている箱根千代田荘に向かいました。

営業再開が可能なのか、どのくらい手を入れなければならないのか等を確認するため、施設の現況を調査しました。

【箱根千代田荘施設概要】

所在地 神奈川県足柄下郡箱根町強羅字向山 1320 番地 275

敷地面積 6,306.20 m²

建物 構造 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上4階

延床面積 4,764.734 m²

竣工 平成11年6月

開設 平成11年7月

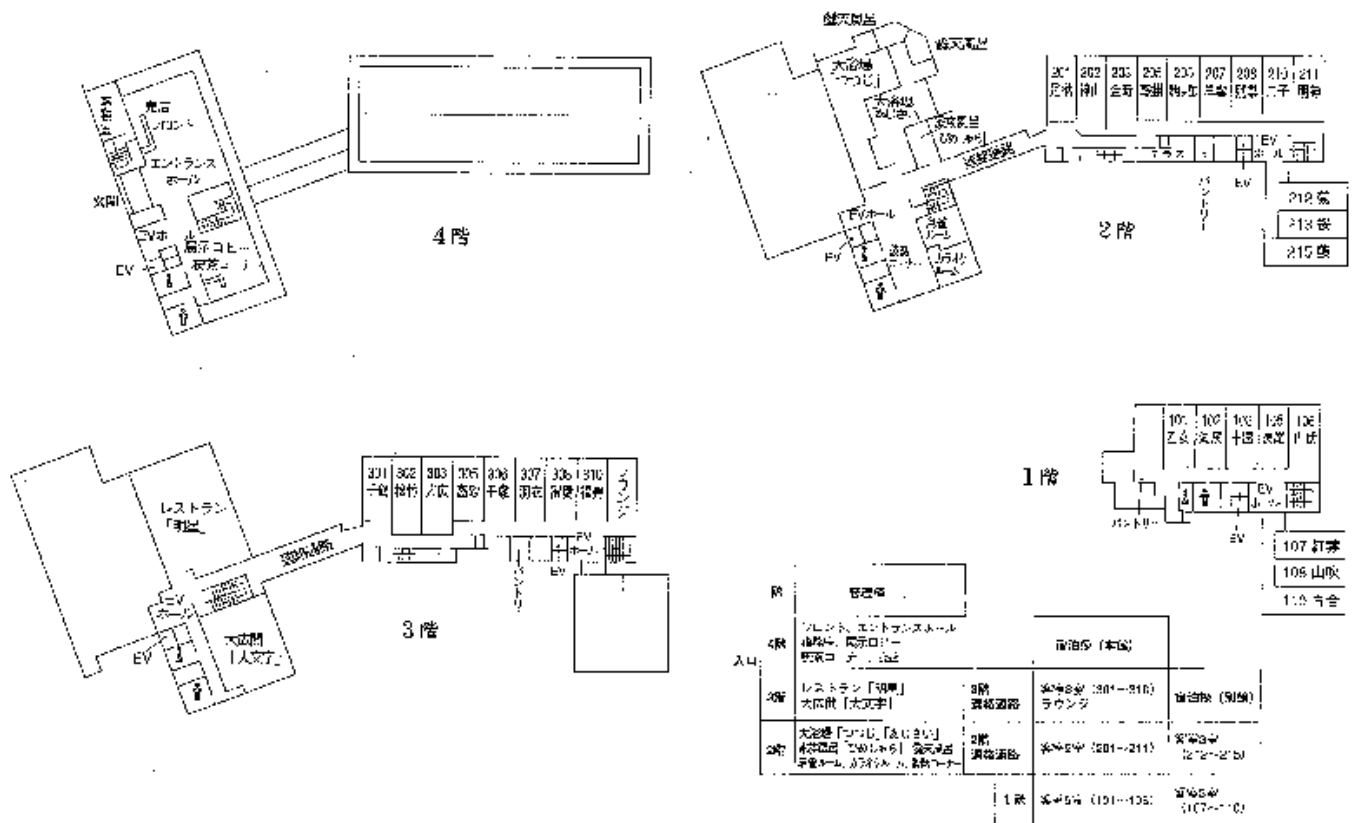
客室数及び収容人員

部屋	室数	定員
3名洋室	1室	3名
4名和室(10畳)	1室	4名
5名和室(12畳)	20室	5名
5名和洋室	2室	5名
5名和洋室 (ハンディキャップ対応)	1室	5名
6名和洋室	3室	6名
合計	28室	140名

施設内容

区 分	内 容	
管理棟	4階	玄関、エントランスホール、フロント、事務室、展示ロビー 喫茶コーナー、売店
	3階	レストラン、大広間、厨房、機械室(空調)
	2階	大浴場、家族風呂、麻雀ルーム、カラオケルーム、談話コーナー 自動販売機コーナー、機械室(電気、空調、給排水等)
宿泊棟	3階	3名洋室【1室】、5名和洋室(ハンディキャップ対応)【1室】 6名和洋室【1室】、5名和室(12畳)【5室】、ラウンジ
	2階	6名和洋室【2室】、5名和洋室【1室】、 5名和室(12畳)【8室】、4名和室(10畳)【1室】
	1階	5名和洋室【1室】、5名和室(12畳)【7室】、機械室
外構 施設	1階	庭園、駐車場、前庭、防火水槽等

輯根子代因莊ご案内





設備等の経年劣化が目立つ厨房内



館内唯一の洋室



館内に6室ある和洋室



白濁の硫黄泉が人気だった家族風呂「ひめしやら」



大浴場「あじさい」(女性用)内。屋外(左奥)には露天風呂がある



宿泊棟3階にある多目的ラウンジ



機械室にて



フロント事務室にて

外観や内装についてはすぐに再開できるような良好な状態が保たれていました。その一方で、厨房、浴室、機械室、フロント事務室内の火災報知設備の機器等、設備面は相当手を加えなければならない状態であることがわかりました。今後の施設の再開の可否等については、所要コストを算出し、総合的に判断する必要があることを確認しました。また、強羅駅から歩いて数分という立地条件及び明星ヶ岳（大文字焼き）が目の前という眺望のよさを改めて認識しました。

(3) 千代田区指定宿泊施設

民間宿泊施設の中から区の指定宿泊施設として指定し、利用料金の一部（1泊 3,000 円、年度内 1 人 10 泊まで）を区が負担することにより、区民の方が割引料金で利用できる、指定宿泊施設事業の強羅地区対象施設 5 か所を調査しました。このうちの 1 か所（白湯の宿 山田家）に宿泊しました。5 階建てながらエレベーターがない等、障害者や高齢者等が利用するには厳しい施設であることがわかりました。他の 4 施設については移動車両の中から施設の外觀を調査した結果、急坂を上らなければならないなど、移動手段には車が必要で、アクセス面で厳しい施設が多いことが明らかになりました。

委員の中から、「保養施設は高齢者等の利用を考慮すべき施設であるので、きちんと現地調査をしてから、指定宿泊施設の選定をすべきではないか」との意見がありました。

千代田区民の指定宿泊施設

千代田区指定宿泊施設利用カードでお得にご利用いただけます。

千代田区民
限定

・1人1泊あたり宿泊料金が3,000円割引でご利用いただけます。(割引額は大人・小人同額)
・トップシーズン(GW・お盆期間・年末年始期間等)の宿泊料金は異なります。

婦恋の宿 あいさい

旧婦恋自然休養村が完全リニューアル

●宿泊料金目安(1泊夕・朝食付)
2名1室利用 お1人様あたり **通常期 9,600円～13,800円**

群馬県吾妻郡婦恋村大字千俣2401

アクセス 自動車利用: 上信越道新水郷井沢ICから約70分 公共交通機関: JR万座・鹿沢口駅(徒歩あり) 要予約)・タクシー約20分

ホテルリゾートピア箱根

森と湖と山と溪流の大自然の中で素敵なリゾートライフを

●宿泊料金目安(1泊夕・朝食付)
2名1室利用 お1人様あたり **通常期 12,960円～18,360円**

神奈川県足柄下郡箱根町強羅1320-1239

アクセス 自動車利用: 東名高速御殿場ICから約40分 公共交通機関: 箱根登山ケーブルカー・中強羅駅→徒歩約2分

白湯の宿 山田家

六十年の歴史を持つ箱根強羅の老舗旅館

●宿泊料金目安(1泊夕・朝食付)
2名1室利用 お1人様あたり **通常期 14,040円～19,850円**

神奈川県足柄下郡箱根町強羅1320-907

アクセス 自動車利用: 小田原厚木道路箱根ICより約40分 公共交通機関: 箱根登山ケーブルカー・早雲山駅下車→徒歩約3分

紀州鉄道箱根強羅ホテル

洗練された心配りに安らぐ、静かなる湯の町

●宿泊料金目安(1泊夕・朝食付)
2名1室利用 お1人様あたり **通常期 10,880円～19,520円**

神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300-238

アクセス 自動車利用: 小田原厚木道路箱根ICから約30分 公共交通機関: 箱根登山鉄道中強羅駅→徒歩約3分

ホテルマロウド箱根

強羅の緑豊かな高台に佇む瀟灑な洋館

●宿泊料金目安(1泊夕・朝食付)
2名1室利用 お1人様あたり **通常期 11,000円～22,680円**

神奈川県足柄下郡箱根町強羅1320

アクセス 自動車利用: 東名高速御殿場ICより約40分 公共交通機関: 箱根登山鉄道強羅駅→ケーブルカー公園上駅下車→徒歩約5分

箱根ホテル小涌園

日本を代表するスパリゾートで箱根を満喫

●宿泊料金目安(1泊夕・朝食付)
2名1室利用 お1人様あたり **通常期 9,180円～23,760円**

神奈川県足柄下郡箱根町二の平1297

アクセス 自動車利用: 小田原厚木道路箱根ICより約30分 公共交通機関: 小田原線箱根湯本駅→バス箱根町・元箱根行約20分・小涌園下車→徒歩約1分

【宿泊施設到着後の意見交換内容】

桜井委員長

千代田荘の温泉について、源泉そのままであるのが家族風呂1か所のみ、他の2か所（男子風呂、女子風呂）は濾過し、かつ、お湯を混ぜていることがわかった。

再開するとなると、温泉権が2口で、年間400万円強の使用料を支払っていること、十分な供給量があるかどうか、箱根温泉供給株式会社への確認も必要である。

千代田荘の機械室、見かけはきれいだが、中は使えない箇所があるとのことだった。

寺沢委員

配管の継ぎ目や曲がっている部分がダメージを受けていた。

桜井委員長

場合によっては、すべて取り替えることもあり得る。

寺沢委員

外見（そとみ）の点検で1億5000万円、2～3年かかるとの話があった。見えない部分まで調査するとなると、どれだけかかるかわからないとのことだった。

山田委員

火災報知設備の使用年数が耐用年数から8年も経過している事態もあった。

岩田委員

火災報知設備の全体更新で5千万～6千万円かかるとのことだった。

桜井委員長

厨房も現状では使用不能とのこと。

いずれにしても大変な金額になる。

寺沢委員

箱根町観光協会提供の資料を見ると、保養所がだんだん減ってきている状況がわかる。そこでの話にもあったように、旅館（民営の宿泊施設）へ切り替わっているという実態がある。

桜井委員長

渋谷区は指定管理者にお願いしている。

観光協会勝俣理事長のお話によれば、区民サービスも十分にできるとのこと。

千代田荘を再開するとしたら、初期費用及び運営経費としてどのくらいかかるのか、区の持ち出しがどのくらいまでなら許されるのか、きちんとつかんで、区民とともに判断する必要がある。

寺沢委員

以前の委員会資料で出ていたが、区民の何パーセントが利用しているか、リピーターはどのくらいいるのか。区民利用率は実人数で7%、延べ人数で12%くらいではなかったか。

(実際は平成26年度実績で、実人数で4%強、延べ人数で8%弱にとどまっている)

桜井委員長

区の指定施設は、立地条件、急な坂を登らなくてはならないところとか、5階建てなのにエレベーターがないなど、ご年配の方等に使っていただくには厳しい。

その点、千代田荘の立地条件は恵まれている。

寺沢委員

千代田荘は保養所としてはグレードが高いのではないかな。

桜井委員長

大文焼が目の前に見えるというのも、ロケーションとして最高である。

桜井委員長

直営時代の千代田荘は料理が冷たい、まずいなどの苦情が多かった。

富士屋ホテルにお願いするようになってから、一定の評価を得るようになった。

寺沢委員

代替施設の場所を再考する必要があるのでは。

飯島委員

利用者から苦情は入っていないのか。

桜井委員長

まだ利用が少ないのでは。利用実態を教えて。

小川参事

強羅地区の指定施設5施設で、本年4月から10月末までで、延べ113泊である。

施設ごとの内訳は、リゾーピア箱根が22、山田家は17、紀州鉄道が26、マロウドが28、小涌園が20、合計113泊となっている。

飯島委員

申し込み窓口のJTBから、各施設の詳細についての情報提供はあるのか。

小川参事

受付のたびに説明はしていると思うが・・・。

桜井委員長

町会の総会場で、ある長寿会で「風呂がバリアフリーになっていない。もう二度といかない」という声もあったと聞いている。

米田委員

料金でランク分けをして選択しやすいように施設を決めたと聞いているが。

小川参事

そのとおり。選定委員には候補施設の資料を見ていただいて、決めていただいた。

飯島委員

実際に来てみないとだめ。資料には不利なことは書いていないので。

山田委員

強羅だけでなく、湯本や他の地域の施設を候補に入れてもよかったという考えはないのか。

小川参事

あくまで強羅にある箱根千代田荘の代替施設なので、強羅とした。

寺沢委員

現地に来てみなきゃ。お年寄りが多く使うのだから。

桜井委員長

百聞は一見に如かずで、そういうことが分かったということが今回の収穫。

前から言っているが、千代田荘に小さな体育館・講堂みたいなものがあればよいと思っていた。サークル活動、例えばバレーボール練習、合唱団の練習などができる施設が併設されていれば、利用の可能性も広がると思う。敷地内は難しい。

町内中学校の空き地が使用できればよいのだが。

飯島委員

観光協会の話聞いて、自然災害で大分めげているのかと思ったら、そうではないことがわかった。数多く占めていた保養所は減っているが、旅館などへ転用しているという。星野リゾートによる開発は箱根も例外でない。運営していくのが大変なところがある一方、（民営の）宿泊施設に転用して、成長産業と見ているところがあるという、箱根ブランドの存在を知った。

立地条件に優れている千代田荘を手離すことになったら、もったいないと改めて思った。

区がある程度お金を投入しなければ、指定されてもやっていけないと。

区民のニーズを考えても、周知度が低いと思う。そこは新住民が増えている中で、きちんと周知がなされれば、未知数だが利用度も高くなるのかなと。

渋谷区の施設の視察ではそこを確認して、検証してみる必要がある。

千代田荘を再開するとしたら、お金がかかる。その兼ね合いで考えていく必要がある。

飯島委員

以前の区民世論調査でもあったが、保養施設の存在を知っているという 区民が少なく、周知が足りないのでは。知らなかったという声も聞く。

私は、保養施設は無駄で贅沢とは思わず、福祉の側面があるのではないかと考えている。

あと、コミュニティを醸成するという部分もあるのではと思う。よって、保養施設の価値は認めるところである。それに対してどのくらいお金がかかるかということがきちんと出てこない、判断できないと思う。

桜井委員長

そういったことを区民に知らせることが我々の仕事である。

「知らない」という区民が多かったのが問題。

二の平渋谷荘のように、一度行って、リピーターが多くなるのが理想。

飯島委員

先ほど前を通ってきた新宿区の施設に頻繁に行っている千代田区民がいる。料金が安く、サービスもよいとのこと。また、施設でイベントを工夫してやっているという。リピーターになっているそうである。

桜井委員長

視察資料の中にある渋谷区の施設のイベントについての資料も、最近になって掲載されたので、提供したものである。こういった工夫も大切である。

飯島委員

指定管理だから、できるのだと思う。

寺沢委員

千代田荘の定員は？

小川参事

140名である。



宿泊施設到着後の意見交換の様子

飯島委員

車いす対応の部屋があるとは知らなかった。

米田委員

千代田荘の借受者の募集条件が厳しかったと聞いているが。

小川参事

固定資産税相当分（2,000万円弱）を負担してもらうという条件で募集した。

寺沢委員

配管等の設備は、区が施工したと聞いているが。

小川参事

大規模改修は、区が施工している。

寺沢委員

いいもの入れても、温泉成分により配管へのダメージを受けることになる。

岩田委員

先ほど、観光協会理事長から、自分たちのホテルでは毎年どこかの配管を直しているという話があった。

寺沢委員

一度リニューアルしても、修繕費用はかなりかかるということは見込んでおかないと。

桜井委員長

メンテにお金がかかるが、硫黄成分は、温泉としての一つの魅力でもある。

金額面はまだざっくりとしたものしかないが、修繕が必要である箇所はわかってきた。運営については、明日訪れる二の平渋谷荘を参考にしつつ、区の負担としてどこまでが許容範囲か、できるのかということを含めて、総合的に判断していかなければならない。

温泉も現状の2口以上はもう与えられないとなると、限られた温泉供給量で運営していくしかない。

寺沢委員

定員140名を、平日も一定の稼働率を確保しなければ、運営が成り立たない。区民以外の利用を入れた。区民の方の利用勝手の面で不便等を感じた場面があり、区民が使わなくなってくるという悪循環がある。

桜井委員長

区民だけの利用で経営が成り立つことができればベスト。それには区民への周知が不可欠である。ファミリー層やサークルなど、いろいろな人が利用できる保養施設が理想。

寺沢委員

低料金で高サービスとなれば、区の負担が必要となる。

飯島委員

稼働率が上がってくればよいのだが。

寺沢委員

保養所は選択的サービスであり、いくらかけてもよいということではないので、金額面での判断材料が必要。

桜井委員長

地元町会の会合で、男性、女性とも指定宿泊施設5施設の話が1回も出てきてない。それは誰も行ってないということ。行っていれば何らかの感想が聞かれるはず。周知が足りないということ。出張所長経由で町会長会議では報告しているはず。

寺沢委員

団体で行くとなると、湯河原に行っているので、指定施設を使ってないのでは。

桜井委員長

それは湯河原しか選択肢がないからである。

コスト、利用人数等、判断するための材料をそろえ、委員会で議論したい。

(4) 渋谷区立二の平渋谷荘

2日目（12月20日）の午前中には、渋谷区立二の平渋谷荘を訪れました。
渋谷区職員の方及び指定管理者である富士屋ホテルの方に案内していただきました。



【二の平渋谷荘 施設概要】

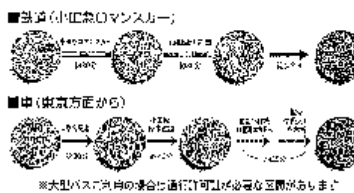
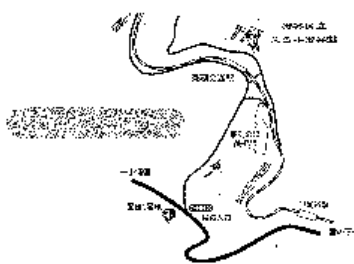
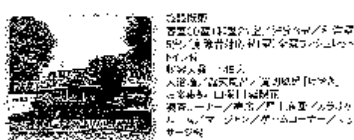
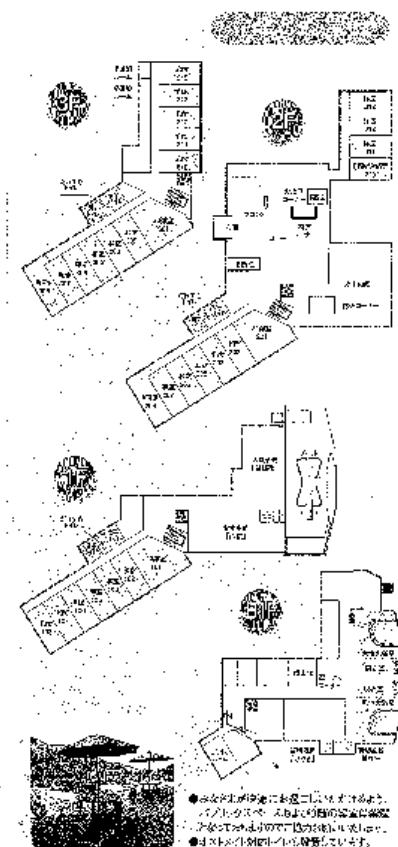
敷地面積	13,917 m ²
建築面積	2,019 m ²
延べ面積	5,041 m ²
構造・規模	RC造 地上3階／地下1階
竣工年	2005年（平成17年）
収容人員	145人
客室数	30室（和室21室 洋室3室 和洋室5室 身障者対応室1室）

館内設備

大浴場/露天風呂/貸切風呂「けやき」

お食事処「山桜」「紫陽花」

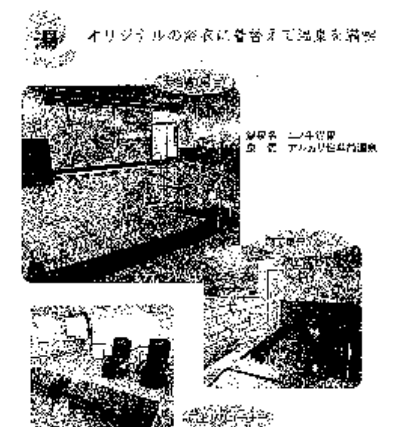
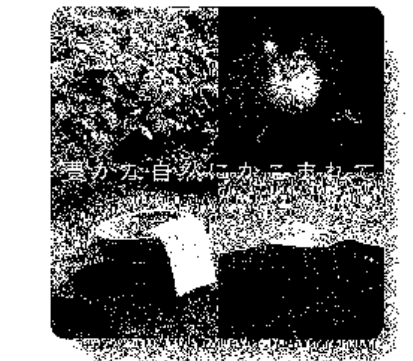
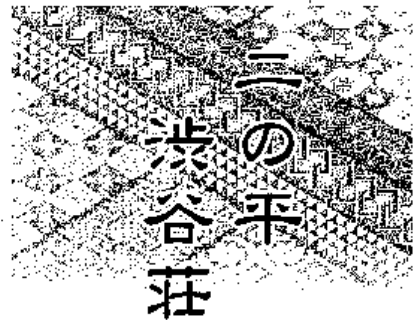
喫茶コーナー／売店／屋上庭園／カラオケルーム／マージャン／ゲームコーナー
／マッサージ機



〒250 0407 静岡県富士市平谷町二ノ平2204番地
TEL 0460 32 3127~3128(予約に使用するコンタクト)

※空室・休館に関するお問い合わせ
二ノ平谷荘予約受付専用:午前9時~午後6時
TEL 0460-32-3132(空室・休館の予約・変更・取消)
東京事務所予約受付専用:平日午前9時~午後6時
TEL 03-3403-0896(空室・休館の予約)

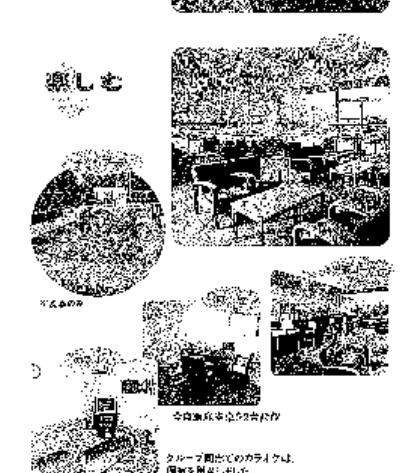
◎二ノ平谷荘公式ウェブサイト◎
<http://www.hazono-shibuya.jp>



オリジナルの浴衣に着替えて温泉を満喫

四季折々の豊かな自然を満喫しながらくつろぎのひとときをお過ごし下さい

旅館建築あふれる登山電車にスイッチバックを繰り返し彫刻の森へ、そこから歩いて2分。夏の夜を彩る大文字温泉で有名な明星温泉を一歩するロビーにたどりつけば、ついさっきまで都合にいたことを忘れさせてくれます。第1歩で知られる二ノ平温泉の湯に身をゆだねれば心も体も癒されます。みなさまのご利用心よりお待ちしております。



【二の平渋谷荘見学中の質疑で明らかとなったこと】

○男女浴室の広さは同じである。

○年間利用者数は、27年度実績で25,252人に上る。

9割は区民利用だが、同一料金としたことで、区外利用が増えており、料金に差があると、区外の方を同行者として誘いづらいとのこと。

○申込受付は、指定管理者である富士屋ホテルと渋谷サービス公社の共同企業体が行っており、区役所の近くに事務所を構えている。

○申し込みははがき、インターネット、FAXで受け付けている。

27年度は申し込み3,775件で、当選2,318件であった。



アルカリ性単純温泉の大浴場。屋外（右奥）には露天風呂がある



ゆったりとした造りの和洋室



バリアフリー客室



オストメイト（人工肛門や人工膀胱を保有している方）に対応しているトイレもある



「渋谷寄席」などのイベントによる積極的な集客努力の姿勢も見られる



1階屋外の子どもプール

【施設見学後の質疑応答】

岩田委員

二の平渋谷荘の稼働率はどのくらいか？

答：25年度 91.5%、26年度 88.7%、27年度 84.5%

現在は9割台を回復している。

桜井委員長

落語以外の企画は何かやっているか？

答：企画ではないが、季節によって飾り付けを変えている。今は冬至ということで、ゆず湯をやっている。

米田委員

障害者の方の部屋を見たが、利用は多いか？

答：身障者対応室のほか、和洋室の利用もある。

飯島委員

利用料金が非常に安く、魅力を感じている。

料金は繁忙期も変わらないのか？

答：閑散期は区外の方も5,300円

区民は年間5,300円。年末年始だけ大人1,000円加算される。

飯島委員

その料金設定でやっていけるのか？

答：指定管理料を協議のうえ決めている。

稼働率40%くらいを確保すると、旅館営業は成り立つといわれている。現状9割以上で稼働しているので、可能である。

飯島委員

安いから稼働率が上がるということか？

答：指定管理料は年間1億4,700万円余となっている。

寺沢委員

リピーターはどのくらいいるか？

答：統計をとっていないのでわからない。

飯島委員

リピーターは最高でどのくらい利用しているか？

答：統計はないが、アンケートで、年に何回も利用している方がいるのはわかる。泊数は1回につき2泊までとなっている。

寺沢委員

この高稼働率であれば、細かな分析は必要なく、区民に喜ばれていると解釈した。

メンテや修繕等でどのくらいかかっているのか？

答：区負担分として、昨年度は3, 200万円余である。

桜井委員長

区民からの意見等についてはどのように対応しているのか？

答：受付は指定管理者のJV（共同企業体）のうち、区100%出資している株式会社渋谷サービス公社が行っている。区も対応している。

寺沢委員

抽選に外れた場合、回数に応じた配慮はあるのか？

あるいは申し込み回数制限はあるのか？

答：申し込み回数の制限は設けていない。こちらの二の平がいっぱいということもあり、平成26年10月から河津の施設を開設した。
河津のほうは6割程度の稼働率である。

寺沢委員

区民と区民外の取扱いの差はあるのか？

答：代表者が区民の場合は2か月前、在勤者の場合は1か月前から。
平日は空きがある。

飯島委員

8月分については、渋谷区民のみのグループのうち、中学生以下のいるグループを優先して抽選するとの案内がホームページ上であるが？

答：夏休みということで、お子さん連れを優先している。

飯島委員

母子家庭への配慮等、他に特別に配慮していることは？

答：子ども家庭部のほうで、ひとり親家庭には3, 000円補助していると聞いている。

飯島委員

利用者の年齢層は？ 夏以外は高齢の方がやはり多いか？

答：ここ何年かは、平日は比較的高齢の方のグループ、土日はファミリー層という傾向がみられる。

寺沢委員

ホテル以上のきめ細かいサービスが感じられるが、苦情や要望は聞いているか？

答：いろいろあるが、Wi-Fi が使えないことについての意見が多い。

寺沢委員

食事についての意見は？

答：アンケートの結果を踏まえて、食事の量については、4段階用意している。

寺沢委員

介護食に近いような、大きさに切ってほしいという要望は出ているか？

答：アレルギーに対しては対応している。食材を切る大きさについても、まれにご希望があり、それに沿った形で対応している。

飯島委員

量を多くしてほしいという場合は、加算料金をとるのか？

答：そういう声はあまりなく、多くてもったいないから少なくしてという声があつて、量を調整した。

寺沢委員

館内のクリスマス用の飾りも、指定管理者の中で専門の方がやっているのか？

答：施設のスタッフの手によるものである。

飯島委員

富士屋ホテルの方に聞きたいが、経費負担の関係で、サービスに差が出てくるのか？

答：例えば、食事の原材料費の負担が異なってくる。指定管理であれば、100%食材費にあてられ、質の高い食事を提供できる。

お客様へのおもてなしという点では、運営方法により差異のない形でやってきた。

飯島委員

寄席のイベントなど、こちらでよかったものを千代田荘でも取り入れるということをしたのか？

答：千代田荘だけでなく、現在の中央区の本栖湖の施設と、以前に港区の大平台の施設の運営も受託していたことがあり、成功事例については他施設でも取り入れるようにしてきたが、各々の区民の嗜好が若干異なるようで、千代田荘では寄席は2年でやめてしまった。

寺沢委員

選択的サービスである保養所を閉鎖している自治体が多い中で、逆に増やそうとしているのは、どのような考え方に基づくものか？

答：保養施設は、地域振興課で所管しているが、まさに地域振興、人と人とのつながり、コミュニティの活性化のため不可欠な施設であると考えている。

地域の中でのつながり、活動の場をより多く広げて、親睦を図っていただく、あるいは、お子さんが成人して独立し区外に転出した場合でも、こういった施設があれば親子世代で一緒に楽しめるという、さらに子が親の世代になって再び区内に戻ってこられるという可能性もある。

よって、縮小する考えは一切持っていない。



施設見学後行われた質疑応答の様子

二の平渋谷荘は、箱根登山鉄道「彫刻の森」駅から徒歩2分ほどという抜群のアクセス、利用しやすくわかりやすい料金設定に加え、寄席等のイベントで集客の努力をしていること等、高い稼働率を誇る理由がいくつかあることがわかりました。

9 今回の調査を踏まえて

当委員会として、休館中の箱根千代田荘をどのように活用していくかについては、現状と営業可能になるまでに要するコストを勘案し、総合的に判断していく必要があります。

また、施設の恵まれた立地条件から、保養施設として再開するだけでなく、他のいろいろな可能性を探っていく余地があることも明らかとなりました。

今回の調査を踏まえ、委員会では、箱根千代田荘を含めた区保養施設の今後の方向性について、利用者や団体の意見を十分に把握しながら調査・研究してまいります。

千代田区議会
地域保健福祉委員会
管外行政調査報告書
平成29年2月